

●解放・文革・改革開放という政治的文脈の中で、農村社会がどのように変容してきたか。長期の調査によって「今」を生きる農民の姿を克明に描いた、中国農村の実像。

中国湖北農村の家族・宗族・婚姻

神戸市外国語大学 秦兆雄著

では、このような社会主義的な近代化政策の過程において、広大な農村地域では、伝統的な親族制度及び村人の死生観はどのような影響を受け、いかに変化してきているのか、これは社会・文化人類学者にとって、極めて重要な意味をもつ問題であり、現在まで既に多くの研究や活発な議論が行われてきた。

しかし、広大な中国大陸では地域差があり、未調査の地域も多いなどの事情により、漢人社会の伝統文化及びその変容などに関する資料の収集や理論的な展開はまだ十分ではなく、未解決の問題は多く残っている。……

本書で筆者は、漢人社会においては父系の出自と血縁原理が極めて重要であり、それは家族、宗族及び婚姻制度を特徴付けるものであるが、同時に個人の選択行為も重要であると強調している。日常生活の中で父系出自と血縁の原理は、個人の人行為と、家族、宗族及び婚姻関係などを自律的に規定し組織していくものではなく、特定の状況の中で限定的に作用するものである。親族制度や組織及びそれらの変化を歴史的に考察する際に、個人の視点は不可欠である。従って、本書は、伝統的な親族制度とそれにとまわらざる生死の儀礼及びそれらの変化形態を分析するに当って、従来の社会組織に関する機能と構理論だけではなく、個人の行動原理からも考察していく。

また、解放後、人民公社までの時期よりも、むしろ人民公社解体後の文化変容の大きさを指摘している。従来の研究において解放後、伝統的な家族、宗族や、婚姻制度及び人々の死生観に起きた変化を論じる際に、伝統文化は土地改革と合作社と人民公社の時期にはかなり破壊されたが、人民公社解体以後は徐々に復活しつつあるという見方が多い。しかし、筆者は、土地改革から人民公社期までに見られた合同家族の存続、家長の強い権限、「門女婿（入り婿）」の復姓と帰宗現象や、人民公社解体後に起きた合同家族と直系家族の解体、老人扶養の深刻さ及び宗族内婚の出現などを取りあげ、そのような見方は不十分であり、再考する必要があると考えているのである。（序文より）

●目次

- 序
- 第一章 調査地の概況
- 第二章 宗族と政治と経済
- 第三章 家族の変化過程
- 第四章 婚姻形態
- 第五章 招婿婚
- 第六章 イトコ婚
- 第七章 宗族内婚
- 第八章 生の儀礼と計画出産
- 第九章 死の儀礼と火葬
- 終章 村人の生活——明日への展望
- あとがき
- 参考文献
- 付録
- 索引

体裁

・A5判・上製・カバー
・三六〇頁

税込み定価

・六三〇〇円
(本体六〇〇〇円)

発行所 風響社

114-0014 東京都北区田端四一-四一九
電話〇三(三二二八)九二四九
http://www.fukyo.co.jp

注 文 書	
流通センター取扱品	
発売	風響社 TEL: 03-3828-9249
税込み	六三〇〇円
部	

秦兆雄著

中国湖北農村の家族・宗族・婚姻

ISBN4-89489-018-6 C3039 ¥6000E

〔お客様控え〕

ご氏名
ご住所

お電話

月 日